

目標3 みどり豊かな環境にやさしいまち

施策8 水とみどりのネットワークの形成

現状と課題

- 東日本大震災では、震災後の避難所や仮設住宅などの用地として、地域のオープンスペースの重要性が改めて認識されました。
- 平成29年度のみどりの実態調査の結果、緑被率*1は21.77%に減少しましたが、これは大規模開発及び道路整備に伴う緑地の減少によるものです。今後減少が懸念される屋敷林*2や農地など、杉並らしい歴史風土を今に伝える貴重なみどりを後世に引き継ぐためには、未来を見据え、計画性を持った取組を行っていくことが重要です。
- 区内の公園整備により着実に公園総面積を拡充しているところですが、人口増の影響もあり区民一人当たりの都区立公園面積の数は横ばいとなっています。現状のみどりを守り、さらに創出していくためには、公園や緑地の整備をより進めるとともに、水とみどりのネットワークの拠点となる多様なオープンスペースを確保していくことが重要です。

計画最終年度(平成33年度)(2021年度)の目標

- 住宅都市に調和したみどりと建物でまちなみが構成され、自然が回復した川と古くからある屋敷林や農地が点在するなど、誰もが自然と共存することに感動と親しみを持つことができる成熟したまちづくりが着実に進んでいます。
- 防災機能を併せ持つ公園やオープンスペースが整備され、みどりがつながり、みどりの総量も増加しています。

施策指標の推移(実績)と目標値

指標名	実績値 (24年度)	実績値 (29年度)	目標値 (33年度) (2021年度)	指標の説明・計算式
緑被率	22.17%	21.77%	25% (44年度) (2032年度)	みどりの基本計画における目標値
区民一人当たりの 都区立公園面積	2.07㎡	2.07㎡	2.46㎡	公園緑地等面積÷人口

施策を構成する計画事業

※実行計画・頁

1 憩いの水辺創出		P120
2 みどりの保全	重点	P121
3 みどりの創出		P122
4 みどりの育成		P122
5 みどりの協働推進		P123
6 下高井戸おおぞら公園の整備		P123
7 馬橋公園の整備	重点	P124
8 都市計画高井戸公園の整備促進		P124
9 (仮称) 荻外荘公園の整備	重点	P124
10 柏の宮公園の整備	新規 重点	P125
11 身近な公園の整備		P125

※「実行計画・頁」は、第3章「実行計画(平成31～33年度)(2019～2021年度)」における当該計画事業の該当ページです。



大田黒公園 紅葉ライトアップ

※1 緑被率…上空から見て、樹木や草等のみどりで被われた部分が区全体の面積に占める割合のこと

※2 屋敷林…戸建て住宅と一体となった敷地内にある概ね高さ3メートル以上の樹木(自然仕立て)が30本以上ある樹林のこと

目標3 みどり豊かな環境にやさしいまち

施策9 持続可能な環境にやさしい住宅都市づくり

現状と課題

- 震災救援所（区立小中学校等）に、太陽光発電機器及び蓄電池を設置し、災害時に必要なエネルギーの供給の確保に努めました。また、低炭素化推進機器^{*1}等の助成制度の充実を図り、再生可能エネルギー^{*2}の利用拡大と自家発電能力の向上に取り組み、区内の太陽光発電機器の普及率は、平成29年度に5.5%となりました。今後も引き続き、二酸化炭素排出量の削減など環境負荷軽減のための更なる取組が必要です。
- 生活環境を確保する取組については、喫煙ルールの徹底において一定の成果が上がっていますが、他方で適切に管理されていない空地等に対する改善要望が多く寄せられています。
- よりよい環境を次世代に引き継ぐためには、小中学校における環境教育の充実を図ることに加え、環境学習や地域での環境美化などに、今後も幅広い区民等の参加を促していく必要があります。

計画最終年度(平成33年度)(2021年度)の目標

- 区民等の理解と自主的・自発的な取組により、再生可能エネルギーの導入が進み、杉並産エネルギー^{*3}が拡大しています。また、省エネ・低炭素化の取組が定着し、快適で環境にやさしい社会づくりが進んでいます。
- 喫煙ルールの徹底により、歩きタバコやポイ捨てが減少しまちの美化が保たれています。また、適切に管理されていない空地等も減少し、安心して快適に暮らせる生活環境が維持されています。
- 区立学校での環境教育の機会も増え家庭での環境配慮行動が進むとともに、あらゆる機会を利用した環境学習が開催され、多くの区民が環境についての理解を深めています。

施策指標の推移(実績)と目標値

指標名	実績値 (24年度)	実績値 (29年度)	目標値 (33年度) (2021年度)	指標の説明・計算式
区内の年間二酸化炭素排出量比率(平成17年度比)	—	94.5% (27年度)	96.2% (31年度) (2019年度)	
区内太陽光発電による発電量	1,022万kWh	1,804万kWh	2,280万kWh	区内太陽光発電機器設置数より年間発電量を推計 [※]
環境に配慮した取組を行っている区民の割合	77.9%	82.0%	100%	区民意向調査による

※太陽光発電パネル1kW当たり、年間1,000kWhの発電を想定

施策を構成する計画事業

※実行計画・頁

1 杉並産エネルギーの創出と省エネルギーの推進	重点	P126
2 魅力ある快適な生活環境の確保		P126
3 環境学習の推進		P127

※「実行計画・頁」は、第3章『実行計画(平成31～33年度)(2019～2021年度)』における当該計画事業の該当ページです。

施策9の目標達成に寄与する他施策の計画事業

(元の施策)

街路灯の整備等		施策3
---------	--	-----



燃料電池自動車なみすけ号となみすけ



小中学生環境サミット発表会の様子

- ※1 低炭素化推進機器…太陽光発電機器等の太陽エネルギー利用機器や、蓄電池・家庭用燃料電池等の省エネルギー機器など、二酸化炭素排出量を抑制(低炭素化)することができ、地球温暖化対策に効果のある機器のこと
- ※2 再生可能エネルギー…資源が枯渇せず繰り返し使え、発電時や熱利用時に地球温暖化の原因となる二酸化炭素をほとんど排出しないエネルギー(太陽光、風力、水力、地熱、太陽熱など)
- ※3 杉並産エネルギー…再生可能エネルギー、自家発電、蓄電池や電気自動車などを組み合わせ、災害時にも安心して使用できるよう区内でつくりだされるエネルギー

目標3 みどり豊かな環境にやさしいまち

施策10 ごみの減量と資源化の推進

現状と課題

- 東京湾に設置することができる最後の埋め立て処分場となる新海面処分場は、あと50年ほどで満杯になると言われています。この処分場を少しでも長く利用するためには、一人ひとりがごみの排出を抑制し、ごみを減量していくことが欠かせません。
- 平成29年度の杉並区民一人1日当たりのごみ排出量は470gとなり、ごみ量は着実に減少しています。そのような中、更なるごみの減量を推進するためには、家庭や事業所での分別の徹底や可燃ごみの約4割を占める生ごみの減量などに取り組んでいく必要があります。
- 一部の地域においては、ごみ出しルールやマナーが守られておらず、集積所周辺のごみの散乱や不法投棄により、まちの美観を損ねているなどの問題が生じています。

計画最終年度(平成33年度)(2021年度)の目標

- ごみの減量・資源化に対する区民の意識が向上することで、生ごみの排出量が減少するとともに資源回収率が上昇し、ごみ量は着実に減少しています。
- 集積所へのごみ出しルールやマナーが守られ、空き地や私道への不法投棄も減少し、まちの美観が保たれています。また、カラス対策の効果が上がり、集積所のごみの散乱は年々減少しています。

施策指標の推移(実績)と目標値

指標名	実績値 (24年度)	実績値 (29年度)	目標値 (33年度) (2021年度)	指標の説明・計算式
区民一人1日当たりのごみ排出量	528g	470g	450g	年間可燃ごみ・不燃ごみ・粗大ごみ量÷人口÷365日
資源回収率	27.3%	27.8%	33%	資源回収量÷(区収集ごみ量+資源回収量)
杉並区のまちを美しいと思う人の割合	76.7%	78.8%	85%	区民意向調査による

